

「夢洲の生きものの保全」 万博に向けてと万博後について」

— 写真

垣井清澄(同調査グループ)
夢洲生きもの調査グループ



写真-1 夢洲現地調査で確認されたセイタカシギの親と雛(2023.7.25)

現在の状況

夢洲では大阪・関西万博が、2025年4月から10月にかけて開催される事で準備が進んでいる。現在は、建設工事が進められており、博覧会協会が「環境影響評価書(以下「評価書」)」で示した内容に基づき対策が進められている。そして、今後は会場運営時、解体工事中の対策も進められる事となる。

「評価書」では、「環境影響評価準備書に関する市長意見(以下「市長意見」)」の履行についても言及されており、「持続可能な万博開催に向けた行動計画(以下「行動計画」)」も、「評価書」を踏襲している。

「市長意見」では、「夢洲では多様な鳥類が確認されていることから、専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること」となっている。

「行動計画」では、自然保護団体等 NGO へ自然環境・生態系の保全等について情報共有を行うとともに、意見交換を行っているとの記述があり、大阪自然環境保全協会

(以下「当協会」)では、私たちを含む環境5団体(※)で、博覧会協会と大阪港湾局から工事状況等を含む説明を受けているが、「市長意見」の具体化は、中々進んでいない状況である。

特に夢洲2区は、「市長意見」で「多様な鳥類が確認されて」おり、「湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出する」事が博覧会協会に委ねられている場所である。この場所については、大阪港湾局による地盤改良工事が博覧会協会の工事着工前に行われており、当協会では、住民監査請求で、この工事が「万博工事着手前に、動物・生態系を埋め損壊して、環境影響評価準備書に関する市長意見の履行を妨害している」として中止する事を求めた場所である。監査結果は、「本件各工事着手前の状態で保全することを求めたものではなく、本件各工事が実施された後で、多様な環境を保全、または創出することを求めたもの」と棄却はされたが、棄却の根拠となっている環境の保全・創出は実現されなければならない。

博覧会協会には、2区の地盤改良工事が行われた場所を含めて、



写真-2 夢洲現地調査で確認されたセイタカシギの幼鳥(2023.8.16)



写真-3 夢洲現地調査の風景(2023.8.16)



写真-4 夢洲現地調査で確認されたセイタカシギの成鳥(2023.7.25)



写真-5 夢洲現地調査で確認されたセイタカシギの雛(2023.7.25)

「多様な鳥類が確認」された環境を保全・創出するロードマップを具体的に示し実行する事が求められている。

「評価書」では、「水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する」と記載されているが、詳細は示されておらず、特に渡り性水鳥のシギ・チドリに必要な湿地環境整備は示されていない。その一点だけにおいても、「市長意見」の履行を、確実に求めているかなければならないと、私たちは考えている。

市民団体として協働へむけて

私たちは、「行動計画」の中で「自然保護団体等 NGOとの自然環境・生態系の保全等について情報共有の一環」として、夢洲現地調査を、本年5月から月1回のペースで大阪港湾局の協力の基で行っている。

現在は地盤改良工事が行われ

ていない沈殿池が一部干上がり、そこにシギ・チドリが飛来してきており、今年も、セイタカシギの営巣と繁殖が確認されたが、この場所は万博中には湿地のまま維持されない。これらについても、「行動計画」の良好な推進の中で、生物多様性保全に関わる保全目標と評価指標を作るべきであり、生きものについてのモニタリング体制が伴わないといけない。

当協会は今、私たちを含む環境5団体と連携して、博覧会協会と大阪港湾局から工事状況等を含む説明を受けているが、更にその場を拡大し、保護手法やモニタリング体制を明確にした「協議の仕組み」に発展させて行くべきと考えている。大阪市は、万博後はこの場所を観光拠点として位置付けているが、博覧会協会が責任を持つはずの保全・復元環境をぜひ生かす形へと持って行ってほしい。それ

こそが、「行動計画」の中の市民参加による良好な推進になっていくのではないだろうか。

今回の万博では、「行動計画」の背景として「昆明・モントリオール生物多様性枠組」にも言及している。大阪市では、博覧会のレガシーとして、博覧会協会が保全・復元した環境を基に、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする30by30の目標を掲げて、夢洲を含む大阪湾岸について、ネイチャーポジティブの視点から、再生を図るための仕組み作りに向けて踏み出して欲しい。

※環境5団体とは、WWFジャパン、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本野鳥の会大阪支部、大阪自然環境保全協会の5団体である。